

第 68 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2021. 1. 21

『エベレンゾ錠 20mg/50mg/100mg』

アステラス製薬株式会社 釘井様

場所：コンパス薬局藤沢

参加者： 沢先生、内科職員さん、熊山ともみ、味田村俊次、木村亜希子、吉井智子、
岩橋好美、隅山穂子、鈴木亜湖、小林昌美、鈴木里菜

【効能・効果】

腎性貧血

【用法・用量】

赤血球造血刺激因子製剤で未治療の場合

通常、成人にはロキサデュスタットとして 1 回 50mg を開始用量とし、週 3 回経口投与する。以後は、患者の状態に応じて投与量を適宜増減するが、最高用量は 1 日 1 回 3.0mg/kg を超えないこととする。

赤血球造血刺激因子製剤から切り替える場合

通常、成人にはロキサデュスタットとして 1 回 70mg 又は 100mg を開始用量とし、週 3 回経口投与する。以後は、患者の状態に応じて投与量を適宜増減するが、最高用量は 1 回 3.0mg/kg を超えないこととする。

【禁忌】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 妊婦又は妊娠している可能性のある女性

【副作用】

重大な副作用

1. 血栓塞栓症 (2.3%)

脳梗塞 (0.5%)、急性心筋梗塞 (0.1%)、肺塞栓症 (0.1%)、シャント閉塞 (0.8%)
等の血栓塞栓症があらわれることがある。

2. 痙攣発作 (頻度不明)

【特徴】

- ・低酸素誘導因子（HIF）経路活性化に伴う内因性エリスロポエチン（EPO）の産生促進および鉄利用の亢進によって赤血球産生を促進し、腎性貧血を改善する。
- ・発売当初は「透析施行中の腎性貧血」のみの適応だったが、「保存期慢性腎臓病に伴う貧血」が適応追加承認され、効能効果が「腎性貧血」へ変更となった。

【考察】

今まではEPO製剤で注射剤が主流であったが、注射剤の疼痛や通院の負担、Hb値コントロールが不十分な患者、ESA高用量患者における心疾患イベントのリスクなどの腎性貧血治療、また、注射剤の保管・管理・廃棄費用の負担や注射剤の手技・感染リスクなどの医療施設における課題があった。

内服製剤が発売されたことにより治療の選択肢が広がり、腎性貧血治療の利便性、安全性が向上すると考えられる。

用法が週3回のため、特に未透析の患者への十分な服用方法指導が必要である。また、リン結合性ポリマーや多価陽イオン含有製剤にて本剤効果減弱、スタチン系にて血中濃度上昇の相互作用が起こる場合があるので併用薬に注意が必要。

【Q&A】

- ・週3回の服用について、飲み忘れた場合は？

→次のあらかじめ定めた日の服用時間帯と24時間以上間隔があく場合は、直ちに服用すること。次のあらかじめ定めた日の服用時間帯との間隔が24時間未満である場合は服用せずに、次のあらかじめ定めた日に服用すること。同日に2回分を服用しないこと。